

平成29年度 北九州市地方独立行政法人評価委員会（第2回）議事要旨

1 開催日時：平成29年7月7日（金） 13：30～15：10

2 開催場所：北九州市役所5階 特別会議室A

3 議事内容

(1) 今後のスケジュールと評価方法の説明

(2) 北九州市立大学による実績報告について

① 平成28年度業務の実績及び第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告

② 平成27年度認証評価結果に関する報告

ア. 大学側から報告書の説明

イ. 報告書に対する質疑応答

○まなびとESDステーションについて

(委員) ESDセンター、ESDステーションとは何か。

(大学) 文科省の「大学間連携共同教育推進事業」に採択された事業。まず、「まなびとESDステーション」というのは、場所のことで、そこでいろいろな事業を行っている。学生以外にも社会人も巻き込んで行っている。活動のひとつ「まなびとプロジェクト」は大学生対象である。いろいろな大学の大学生が加わり、環境や福祉、このような分野でのプロジェクトを立ち上げて、地域活動に関わることを行っている。そして、「まなびと講座」はESDに対する知識を教授する科目である。また、「まなびとキャンパス」は、ESDに関係するセミナー、イベントなどを行っている。まなびとESDステーションの取り組みは、市やESD協議会、参加する市民団体から継続の要望が非常に強い。

(委員) まなびとESDステーションの補助事業は平成28年度で終了するが、今後は自己資金で行っていくのか。

(大学) 平成29年度は、市からの補助金と、各大学が少しずつ経費を分担する。これまで行ってきたプロジェクトは、各大学の自前のプロジェクトとして実施してもらうなど、事業実施方法の見直しや新たなプロジェクトの立ち上げなどを行い、リニューアルを図っていく。

○No.3（英語力の全学的な養成）

(委員) 到達者の割合について、ひびきのキャンパスの上がり方は非常にすごいが、北方キャンパスはほとんど変わっていない。

(大学) 北方キャンパスは、4学部1学群あり、それぞれ特色がある。全学的な英語教育は、基盤教育センターが一括して行っているので、ひびきのキャンパスとは環境が違っている。また、大きな違いは、ひびきのキャンパスのように、未到達者への対面指導や補習授業を行っていないこと、e-ラーニングシステムが異なること。北方キャンパスについては、少し見直しが必要ではないかと考えている。

○No. 19 (ソーシャルビジネス分野の重点化等)

(委員) 国際交流提携校だが、全部中華ビジネスである。なぜ中華ビジネスに絞って進めているのか。

(大学) マネジメント研究科をつくった際、アジア・環境・パブリックの3つの柱を設けた。アジアという柱に取り組むときに、北九州地域の中国との関わりを踏まえ、加えて、中華圏とのコネクションが強い中華ビジネスに熱心な教員がいたということもあって、それをてこに中華ビジネスに特化することとした。九州の経済界においても中華圏との連携を重要視しており、そういったところでの後押しもいただき、アジアでもトップレベルの香港大学と協定を締結し、共同研究を行うなどの連携を行っている。

(委員) 今後、東南アジアや韓国、欧米への展開を現時点では考えていないのか。

(大学) 特色を出すということで、まずは中華に力を入れる。